

図書館報

ぷらっつ

篠崎

064号

江戸川まいにんぐ 発掘 第64回

「（仮称）江戸川区角野栄子 児童文学館」開設決定！

「魔女の宅急便」などの作者として知られる角野栄子さん
と斉藤猛江戸川区長が2019年9月11日に記者会見を開き、
「なぎさ公園」に建設予定の「（仮称）江戸川区角野栄子
児童文学館」の基本構想を発表しました。

角野さんは幼少期から20代前半まで江戸川区北小岩で暮らしました。区は国際アンデルセン賞作家賞に選ばれたことを受け、その功績を称えようと「江戸川区区民栄誉賞」を創設し、2019年1月23日に表彰式を執り行いました。同日開催された記念講演会で角野さんは、「幼い頃に区内で過ごした情景や経験が作品に影響を与えている」と語り、「アンデルセン賞の受賞によって扉がもう一度開いた。小岩を舞台にした物語を書いてみたい」と話し、会場を沸かせたそうです。



2019年9月11日 基本構想プレス発表 斉藤猛区長と
(江戸川区ホームページより)

P2~P3 特集

この賞、知っていますか？

江戸川まいにんぐ

P1 「（仮称）江戸川区角野栄子
児童文学館」開設決定！

そのメロディに魅せられて♪

P4 「オペラ座の怪人」(完全版)
オリジナル・ロンドン・キャスト

スタッフのセレクション

P4 八月の六日間

江戸川区内のイベントやスポットについて、
スタッフが調査して身近な情報をお届けする、
地域密着型のコーナーです。

江戸川区では素晴らしい功績をあげ、区と縁がある
角野さんの児童文学館を2022年、「なぎさ公園」に開
設することを決定しました。施設の目的は3つ。1. 角
野さんの偉大な功績と、その物語の世界観を区の誇る
文化として継承し児童文学の素晴らしさを発信する。2.
子どもたち自身が自由に本と親しむ場を作る。3. イベ
ントや体験を通して子どもたちの想像力と創造力をは
ぐくむ場にするとしています。

斉藤区長は「角野先生の世界観や偉大な功績を江
戸川区民そして全国の子どもたちに享受してもらいた
い。児童文学館ができることで、江戸川区の文化の幅
が広がるとともに、新たな化学反応が起こるのではな
いかと期待しています」と話しています。また、角野さ
んからは、「この館で、子どもたち一人ひとりが自由に
本に触れたり、物語の世界が持つ大きな力を感じたり、
たくさんの思い出を作ってほしいですね。」とのメッセ
ージをいただいています。

子どもたちの気持ちがワクワクするような施設……完
成が楽しみです。

参考資料

（仮称）江戸川区角野栄子児童文学館基本構想

江戸川区経営企画部企画課課務担当係・企画担当係ほか編集

江戸川区経営企画部ほか K1-90 篠崎ほか所蔵

広報えどがわ 2019年9月20日号 NO.1925

江戸川区ホームページ「（仮称）江戸川区角野栄子児童文学館」

https://www.city.edogawa.tokyo.jp/e001/kuseijoho/keikaku/jido_bungaku.html

ライブラシネマ篠崎

「追憶」（1973年 アメリカ）

2月9日（日）14時開演（13時30分開場）

場所：篠崎文化プラザ 講義室

定員：50名（当日受付、先着順）

1937年の大学のキャンパス。政治運動に没頭するケイ
ティーにとって、育ちが良くハンサムなハベルはひそかな
憧れの対象だった。やがて2人は第二次世界大戦中の
ニューヨークで再会し、いつしか愛し合い結婚するが、幸せ
は長くは続かなかった。

そのメロディに魅せられて

「オペラ座の怪人」(完全版) オリジナル・ロンドン・キャスト

篠崎ほか所蔵 F3才09571

ナポレオン3世の命で建てられたパリ・オペラ座。世界で最も美しいオペラハウスを建てるのが彼の夢でした。完成まで15年を要し、落成式が行われたのは、彼の死から約2年後の1875年1月5日。存命であつたらさぞかし誇りに思ったことでしょう。そこを舞台にした有名なミュージカルが「オペラ座の怪人」です。オペラ座に住む怪人が、コーラスの一人に過ぎないクリスティーヌを指導し、プリマドンナに育て上げます。やがて怪人は彼女に恋心を抱き、そ

こから悲劇が始まります。怪人が彼の住む地下へクリスティーヌを誘う「ファントム・オブ・ジ・オペラ」はクラシック音楽にシンセサイザーの音が重なり、まるで劇場のシャンデリアの様に重厚かつきらびやかです。他にも怪人がせつない恋心を歌う「ミュージック・オブ・ザ・ナイト」など名曲揃い。クリスティーヌ役のサラ・ブライトマンは可憐に伸びやかに、怪人役のマイケル・クロフォードは切なく歌い上げる華麗でドラマチックなこの作品を是非ご堪能ください。

スタッフのセレクション!

篠崎図書館スタッフが選んだ
おすすめ本を紹介します。

八月の六日間 北村 薫著 KADOKAWA

Fキ 篠崎ほか所蔵

悩み多き主人公が仕事や生活ですり減った気持ちを登山で洗い流してゆく、5篇から成る連作短編集です。

5篇それぞれ別の登山コースが舞台で、そのうち3つは北アルプスです。燕岳・槍ヶ岳といった、登山者にはなじみがある山が登場するので、その景色や登山路の厳しさなどが想像しやすいと思います。

主人公の“わたし”は40歳目前の文芸誌の副編集。3年前に恋人と別れ、仕事でもストレスを抱えこんでいた時に、同僚から「明日、山、行きませんか」と誘われます。季節は秋。紅葉きらめく初心者コースで、運命的に遭遇した「この世のものとは思えない眺め」に心うたれます。登頂した時の達成感。山頂から見える景色。山で会

う個性的な人々。彼女はどんどん山の魅力にとりつかれていきます。主人公は辛いことがあった時こそ山に登っています。友人の死、昔の恋人の結婚……。「結局、わたしは山に心を開きに行く。そして、一人の方がより、そうなる。だから、一人が好きなのだと思う」。

私も何か決断しなければいけない時に、一人で山に行きます。人生良い時もあれば悪い時もある。山を歩いて日常を忘れ、心を浄化する。そして再び日常に戻る。登っている間は自分との戦いです。自分ほどの方向に進むべきなのか、迷いながらも山に登り、自分との対話を重ねている彼女の姿は、同世代の私の心にささるものがありました。

編集後記

遂にEMSの腹筋ベルトを買ったので、今年は腹筋が割れる予定です。(風雲ふわふわ丸) / 見慣れた通勤路でも、ゆっくり歩いてみると意外な発見が。寒いけれど散歩しよう。(ぱるめりん) / 引越しをして念願の本棚を買いました。ぎゅうぎゅう詰めの段ボール箱から住まいが移り、本も一緒に新生活の開始です。(モシャリー) / 冬は暖かい家でのんびり過ごしたいと思う今日この頃です。(ちゃしこ)

編集・発行: 江戸川区立篠崎図書館

住所: 〒133-0061

江戸川区篠崎町7-20-19 しのぎ文化プラザ内

TEL: 03-3670-9102

[しのぎ文化プラザホームページ]内篠崎図書館ページ

<https://www.shinozaki-bunkaplaza.com/library/>